

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	愛媛県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

○	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
愛媛県	特別支援学校	知的障害	えひめけんりつにい はまどくべつし えんがっこう 愛媛県立新居浜特別支援学校
愛媛県	高等学校	全日制	えひめけんりつにい はましようぎょうこうがっこう 愛媛県立新居浜商業高等学校
愛媛県	高等学校	定時制	えひめけんりつかわの えこうがっこう 愛媛県立川之江高等学校

2 研究課題

高等学校に在籍する発達障害等の特別な支援を必要とする生徒へのキャリア教育・就労支援の充実 ～特別支援学校のセンター的機能の活用や労働・福祉等関係機関との連携を通して～

3 研究の概要

<u>（１）就職後の職場定着・継続支援や生活支援を視野に入れた就労支援ネットワークの構築</u> ① 就労支援ネットワーク会議の開催（年３回） ② 各モデル校におけるケース会議、個別の支援会議の実施 ③ 労働、福祉関係機関との連携による在学中からの就労実現に向けた支援 ④ 「職場定着支援シート」の作成及び関係機関と連携した職場定着支援 <u>（２）モデル校の高等学校における特別な支援を必要とする生徒の実態把握</u> ① 全校生徒を対象とした実態把握の実施 ② 発達検査や障害者職業センターでの職業評価等による対象生徒の特性の把握 ③ 特別支援学校の支援による個別の教育支援計画の作成 <u>（３）一人一人の特性やニーズに応じたキャリア教育・就労支援の充実</u> ① 就労支援コーディネーターによる職場開拓、職場実習の実施 ② 職場実習やキャリアカウンセリング、構成的グループエンカウンター等を通じた自己理解の深化や進路希望の具体化、高等学校の教職員が発達障害や就労支援について知識・技能を習得するための研修の実施 ③ 障害者手帳の取得による障害者雇用枠を利用した就労の検討

④ 先進校視察を通じて得られた知見の活用

4 研究の成果

(1) 就職後の職場定着・継続支援や生活支援を視野に入れた就労支援ネットワークの構築

平成 26 年度に構築した特別支援学校、高等学校と労働・福祉等関係機関による就労支援ネットワークを活用し、高等学校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の就労支援を充実させるとともに、平成 26 年度の卒業生について、各関係機関が連携しながら職場定着支援を行い、長期にわたって就労継続を支援していく体制の構築を進めることができた。

(2) 高等学校における特別な支援を必要とする生徒の実態把握及び校内支援体制の整備

中学校からの引継ぎの充実などにより、早期に生徒が抱える困難さに気づき、多面的に生徒の実態を把握することができた。その情報を教員間で共有することにより、特別な支援を必要とする生徒の教育に対する理解が深まり、指導・支援の充実につなげるとともに、学校全体で取り組む体制づくりを進めることができた。

(3) 一人一人の特性やニーズに応じたキャリア教育・就労支援の充実

モデル校における職場実習の計画的な実施や関係機関と連携した職業評価、キャリアカウンセリング等を有効に活用した事前指導や事後指導の充実、教職員研修や先進校視察の成果を生かした学校全体で取り組むキャリア教育の推進により、生徒の自己理解が深まり、進路を自己選択するための支援につながった。

また、就労支援コーディネーターの活用により、本人の進路希望や特性に応じた職場開拓、職場実習の調整を行い、就職につなげることができた。

5 課題と今後の方策

(1) 就職後の職場定着・継続支援や生活支援を視野に入れた就労支援ネットワークの構築

職場定着支援において、本人の努力と職場の環境調整の 2 つの視点で考えていくことが重要である。そこで、就職に向けた職場実習を行う中で、本人の特性や対応法について職場の理解を深めるとともに本人の力を発揮するために必要な環境調整について検討を行う。また、就労支援においては、生徒の特性や強みを生かせる職場とのマッチングを図ることが重要である。そこで、就労支援コーディネーターを中心に、多様な職種、仕事内容の実習先や進路先の開拓に引き続き取り組んでいく。

(2) 学校生活における指導・支援の充実について

実態把握により明らかとなった様々な困難さを抱えている生徒に対しては、よりきめ細やかな支援が必要である。そこで、発達障害等のある生徒の実態把握や障害の理解、指導・支援の在り方等について、全教職員の理解をさらに深めるとともに、「個別の教育支援計画」に加え「個別の指導計画」を充実させていく。

(3) 特別支援学校と高等学校との連携について

特別支援学校のセンター的機能として高等学校の生徒が抱える困難さの多様化、複雑

化に伴う相談に対応するために、外部の専門家等を活用した研修等によりさらなる専門性の向上を図る。また、特別支援学校で、企業関係者から指導・助言を得ながら取組を進めている、職業人として必要な基本的な力を身に付ける指導について、高等学校における活用方法を検討し、連携しながら取り組む。